

浦添市

かじょうかいづか
嘉門貝塚

浦添市字城間



26° 15' 53.29" N
127° 42' 9.16" E



用語解説

●弥生土器

弥生時代に焼かれた土器。焼成温度は縄文土器よりも高いため、赤色で、薄手だがしっかりしている。文様の無い土器が多く、口広の壺(つぼ)や、高坏(たかつき)・甕(かめ)・鉢(はち)等がある。

●石ノミ

石製品等を加工、彫刻するための道具。石で作られたノミ。

●アンボンクロザメ

イモガイ科の巻貝。殻長は12cm程度になる。

●集積遺構

貝などを1ヵ所に集めて置いた遺構。



浦添市牧港補給地区近くの海岸線に広がる遺跡。近くには、牧港貝塚や小湾遺跡など、多くの遺跡も見ついているのだよ。またイノシシやウミガメ、クジラなどの動物の骨も出土したのだよ。

●遺物出土状況



嘉門貝塚は縄文時代後期(約3500年前)から弥生~平安並行時代Ⅱ期(約2000年前)の集落跡です。約2000年前は日本本土で稲作の盛んな弥生時代にあたり、沖縄と九州との間で腕輪の材料となる貝をめぐる交易が行われていました。その裏付けとして、九州の遺跡からゴホウラやアンボンクロザメ等のサンゴ礁の海で生息する貝で作られた腕輪が発見され、沖縄からは九州で生産された「弥生土器」が見つっています。

発掘調査によって、九州の「弥生土器」や石ノミ等のほか、貯蔵していたゴホウラやアンボンクロザメ等の貝集積遺構が数多く見つかることから、嘉門貝塚はこうした交易を示す貴重な遺跡です。

また、この遺跡では、縄文時代後期の住居跡も見つかり、魚や貝等の食料資源が豊富なサンゴ礁が目の前に広がる嘉門貝塚一帯は、古い時代から人々が生活しやすい場所だったことがわかります。

海が目の前にあるから、食べ物も豊富で生活しやすかっただろうね。



【参考文献】

- ・浦添市教育委員会社会教育課。1980。『うらそえの文化財：遺跡分布調査報告』。
- ・浦添市史編集委員会。1986。『浦添市史 第6巻 資料編5』。浦添市教育委員会。
- ・浦添市史編集委員会。1989。『浦添市史 第1巻 通史編』。浦添市教育委員会。
- ・浦添市教育委員会。1991。『嘉門貝塚A』。
- ・浦添市教育委員会。1993。『嘉門貝塚B』。



貝交易の活発さがうかがえる遺跡



竪穴住居跡

貝集積



土器出土状況

市指定史跡

チヂフチャー どう けつ い せ き 洞穴遺跡

浦添市牧港



26° 15' 22.79" N

127° 43' 46.71" E

市指定史跡(昭和61年3月30日)

用語解説

●岩陰墓

岩陰などを石積みで囲い、遺体や遺骨を納めた厨子壟等を納めた墓。集落単位の墓所として用いられることが多い。グスク時代から見られ、近世に多い。

●避難壕

沖縄戦中に敵軍の攻撃から身を隠す場所として使われた人工または自然の洞穴。

●爪形土器

外表面のほぼ全面に、人の爪や指先で施したような文様、あるいはそれを模した文様が見られる深鉢形の土器。沖縄県では縄文時代早期に属しており、その分布は沖縄島と渡嘉敷島、奄美諸島に限られている。

●史跡

文化財の種類の一つ。貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅、その他の遺跡。

2000年前は海岸近くの砂丘地に住んでいる人々が多かったのに、どうしてここを選んだのだろう。



全長110メートル。7000年前の土器や2000～800年前の土器や貝、魚・イノシシの骨等が見つかったのだよ。沖縄戦中は避難壕として、約400名の嘉数集落の人たちが利用したのだよ。

● 近景 (2015年撮影)



チヂフチャー洞穴遺跡は、牧港に位置する縄文時代早期(約7000年前)・弥生～平安並行時代・近世・近代の遺跡です。弥生～平安並行時代Ⅱ期(約2000年前)には当時の人々の住居があり、近世(約300年前)には岩陰墓とされ、沖縄戦の際に避難壕として利用されました。

約2000年前の県内の遺跡の多くは、魚や貝等の食料を採取しやすい海岸近くの砂丘地に立地していますが、この遺跡は標高55mの内陸部にあります。その理由は不明です。

また、出土した土器の中には、縄文時代早期(約7000年前)の「爪形土器」も見つかっています。この土器の発見により、長期間にわたって洞穴が利用されていたことがわかりました。

この遺跡は、1979(昭和54)年に見つかり、いろいろな時代の人々の暮らしぶりを示す貴重なものであるため、1986(昭和61)年に浦添市の史跡に指定されました。

【参考文献】

- ・浦添市教育委員会社会教育課。1980。『うらそえの文化財：遺跡分布調査報告』。
- ・浦添市教育委員会。1988。『チヂフチャー洞穴遺跡』。
- ・浦添市史編集委員会。1989。『浦添市史 第1巻 通史編』。浦添市教育委員会。

発掘状況



7000年前から戦前まで利用された洞穴遺跡



洞穴内部



洞穴前庭部の遺物出土状況



出土遺物
(弥生~平安並行時代、沖縄戦中)

まえだ きょうづか
前田・経塚
きんせいぼぐん
近世墓群

浦添市前田・経塚



26° 14' 19.11" N
127° 43' 57.47" E

用語解説

●掘込墓

斜面や崖に横穴を掘りこんで厨子甕や木棺を置く場所を作った墓。

●厨子甕

洗骨したあとの骨を納める容器。家型、甕(かめ)型がある。

●洗骨

墓に安置した遺体を、ある期間が経ってから取り出し、骨を洗い清める儀礼のこと。

●墨書き

厨子甕に書かれているものを方言で「ミガチ」という。

●副葬品

遺体を葬る際にそえられた物。

●陣地壕

軍隊が兵や火器などを配置する場所として利用した人工または自然の洞窟・溝。

●避難壕

沖縄戦中に敵軍の攻撃から身を隠す場所として使われた人工または自然の洞穴。

●墓室 (1次葬人骨と厨子甕)



首里に隣接する浦添市南東部の丘陵一帯には、近世～近代にかけて造られた1000基以上の墓が見つっています。墓は小高い丘の斜面に横穴を掘って造られており、これを方言でフィンチャーバカ(掘込墓)といいます。一家族ごとに丘のあらゆる斜面に何段も隙間なく造られることが多く、その様子は墓の「団地」のようです。また、墓の中には死者の骨を納めたジーシガーミ(厨子甕)が安置され、甕の中には故人(亡くなった人)の名前、称号、死亡した年月日、洗骨した年月日等が蓋や身に墨書きされているものがあります。また、故人が生前に利用した簪や鏡、酒器、煙管等の副葬品や炭化米も数多く出土しています。

沖縄戦では、多くの墓が掘り広げられ日本軍の陣地壕や民間人の避難壕として転用されました。銃火器や眼鏡、万年筆等の兵士の所持品、民間人の持ち込んだ日用雑器等の出土品から、軍民が混在する戦場の様子が見て取れます。

【参考文献】

- ・浦添市教育委員会. 2007a. 『前田・経塚近世墓群』.
- ・浦添市教育委員会. 2007b. 『市内遺跡発掘調査報告書(1)』.
- ・浦添市教育委員会. 2011. 『前田・経塚近世墓群 2』.
- ・浦添市教育委員会. 2012. 『前田・経塚近世墓群 3』.
- ・浦添市教育委員会. 2013. 『前田・経塚近世墓群 4』.
- ・浦添市教育委員会. 2014. 『前田・経塚近世墓群 5』.
- ・浦添市教育委員会. 2015. 『前田・経塚近世墓群 6』.

● 丘陵南側全景



団地のように重層的に造られた墓

● 062号墓出土厨子甕



● 塚としての墓



● 避難塚としての墓



横から掘り込みやすい土質なので多くの墓が掘られたんだね。

昔は今とちがって、亡くなくても火葬(かろう)せず、墓の中に棺を置いて骨になるのを待ったのだよ。その後、厨子甕に納めて墓室に安置したのだよ。



浦添市西海岸の石切場跡 (港川地区)

浦添市字港川



26° 15' 52.93" N
127° 41' 56.84" E



用語解説

●有孔虫

石灰質の殻を持つ単細胞動物。1mm以下のものが多い。「星砂」は有孔虫の殻である。

●浦添グスク・ようどれ館

国指定史跡「浦添城跡」の施設。浦添グスクと浦添ようどれでの発掘調査の出土品や、古写真のパネルなどを展示している。浦添ようどれ西室（英祖王陵）内部を実物大で復元し、県指定文化財「浦添ようどれの石厨子」のレプリカ（模型）も展示している。



● 切り出されず残った平板 (ヒラガー)



牧港から港川にかけて13～12万年前に有孔虫の小さな殻が集まってできたマチナト石灰岩が分布しています。この遺跡は近代(約150年前～沖縄戦)に屋敷囲いや家畜小屋などの石材として、マチナト石灰岩を切り出した石切場跡です。切り出された石材には主にイシバーヤ(石柱)とヒラガー(壁に使う平板状の石)があります。遺跡には切り出し途中の石材とともに、石切りの道具が残されていたため、機械を使用せず人力で作業していた当時の様子を詳しく知ることができました。その方法は地元でヒチヤカニガラと呼ばれる金属の棒を打ち込んで上部から切り込みを入れ、次に側面からイヤと呼ばれる楔を同じ間隔で打ち込んで石材を割り取るものです。これらの跡を数えると、1000本以上の石材が切り出されたことが推定されます。この石切場跡は、機械化される前の石切りの方法がわかる貴重な遺跡です。石切遺構の一部は切り取られ、「浦添グスク・ようどれ館」で屋外展示されています。

【参考文献】

- ・浦添市教育委員会. 2010. 『浦添市西海岸の石切場跡：城間～仲西地区』.
- ・嵩原康平・安斎英介・島澤由香. 2010. 「沖縄県内の石切について」.
- よのつち(浦添市文化部紀要) (6): 103-128.
- ・浦添市教育委員会. 2012. 『浦添市西海岸の石切場跡：港川地区2』.
- ・浦添市教育委員会. 2013. 『浦添市西海岸の石切場跡：港川地区1』.

● 遺跡全景



石切場の区画は当時の知恵と技術の結晶

どのように石を
切り取ったのかな。
石切りに使われる道具も
見つかったのよ。



海岸から切り取
った燧石は、建
築用材として需
要が高く浦添の
地場産業の一つ
だったのだよ。



● 溝状遺構



● 遺構底面の工具痕



● 遺構東部の状況

西原町 与那城貝塚

西原町字与那城



26° 13' 16.77" N
127° 45' 26.52" E



西原町の街中にあったんだね。

用語解説

- 自然遺物
貝殻や魚や動物の骨等の遺物。
- カムイヤキ
奄美諸島に属する徳之島伊仙町の山中に分布するカムイヤキ古窯跡群で、11～13世紀に生産された無釉の焼締の陶器。鹿児島県の薩摩半島から琉球列島全域に分布する。
- 人工遺物
石器や土器など人が作ったもの。
- フェンサ下層式土器
糸満市名城集落にあるフェンサグスク貝塚の下層から最初に出土した土器。くびれ平底土器とも呼ばれる。甕形が主体でわずかに壺形もある。くびれ平底で無文化が進むが、口頸部にコブ状突起を貼り付ける。沖縄島及び周辺離島に分布する。
- 先史時代
文字資料が無い時代。



発掘調査風景

発掘調査風景 (カンギクガイが大量に出土)



グスク時代初期の状況を示す遺物が出土

与那城貝塚は、1979(昭和54)年に中央公民館のテニスコート建設中に発見された遺跡です。

開発前の地形は標高30mの小丘陵で、中腹部にはテラス状の平坦地が広がり、その一角には湧き水があったようです。

遺跡の遺物包含層は、主にカンギクを中心とした貝類が混在する土層でした。そこから50種類にもおよぶ貝類と165点の獣魚骨が出土しました。これらの自然遺物は、当時の人々の食生活や自然環境を推測する上で重要な資料になると思われます。

その他、土器やカムイヤキ、石器などの人工遺物も出土しました。特に遺物の大半は、「フェンサ下層式土器」と呼ばれる底部から胴部への立上げ部分がくびれる無文(文様無し)の甕型土器で、西原町内での出土例が少ないものです。

与那城貝塚が形成された時期は、弥生～平安並行時代からグスク時代に移行する途中であり、沖縄の先史時代における時代的な変化を探る上で貴重な遺跡です。

砂岩で作られた石器やカムイヤキ等が出土しているのだよ。また50種類の貝と165点の獣魚骨は、当時の人々の食生活や生活環境を推測する上で重要な資料となるのだよ。



【参考文献】
・西原町教育委員会、1980、『与那城貝塚』。
・西原町史編纂委員会編、1996、『西原町史 第5巻:資料編』、西原町役場。

西原町

が じゃ い せき
我謝遺跡

西原町字我謝、与那城



26° 13' 7.74" N
127° 45' 25.56" E



用語解説

- ジャーガル**
泥岩が風化してできた灰色～灰褐色の土で沖縄島南部に多い。粘土質の細かい粒子からなり、水はけが悪く、雨が降るとぬかるむ。
- 白磁**
白磁の素地に透明釉をかけ、高温で焼成した磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本のほか、ヨーロッパでも生産される。沖縄で出土する中国産白磁は、稀に定窯産もあるが、大部分は明代の景德鎮や中国南部を産地とする。
- 青磁**
釉薬が緑が青色系の色調となる磁器。古くから中国をはじめ、朝鮮、日本、ベトナム、タイ、ミャンマーなどで生産されている。日本や沖縄で出土する中国産青磁の多くは、元から明代にかけて浙江省の龍泉窯及びその周辺で生産されたもの。
- 輸入陶磁器**
海外貿易によって得られた陶磁器のこと。グスクの発掘調査で発見される貿易陶磁器は主に中国産であるが、他に朝鮮・ベトナム・タイ・日本産がある。貿易陶磁器ともいう。
- カムイヤキ**
奄美諸島に属する徳之島伊仙町の山中に分布するカムイヤキ古窯跡群で、11～13世紀に生産された無釉の焼締の陶器。鹿児島県の薩摩半島から琉球列島全域に分布する。
- 滑石製石鍋**
長崎県西彼杵半島一帯に産する滑石を加工して作った鍋。煮炊きを目的とし保温性に優れる。
- 自然遺物**
貝殻や魚や動物の骨等の遺物。

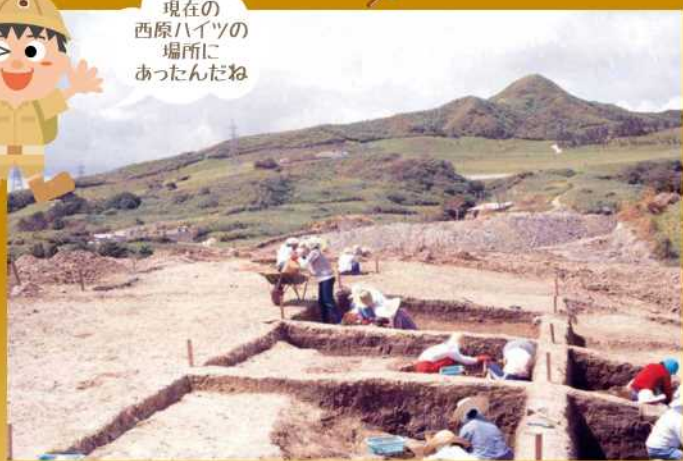


●陶磁器類



現在の西原ハイツの場所に
あったんだね

●発掘調査風景 (奥に運玉森)



グスク時代初期の遺跡の立地や
当時の土地利用を知る事ができる遺跡

我謝遺跡は、我謝及び与那城集落北西部のジャーガル土壌地帯に形成された遺跡です。「クガニムイ(黄金森)」、「ガージャモー(我謝森)」等と呼ばれる標高40～50m前後の小丘陵上に所在していましたが、大規模な宅地造成工事によって、遺跡の本体部分は消滅しています。

遺物は、土器を主体に、白磁、青磁等の輸入陶磁器や、カムイヤキ、滑石製石鍋等のグスク時代の中でも比較的古い時期のものが出土しており、その他に貝、獣魚骨、炭化した米や麦等の自然遺物も出土しています。

我謝遺跡は、グスク時代初期の遺跡の立地や当時の土地利用の様子を知る上で貴重な遺跡です。

【参考文献】

- ・西原町教育委員会。1983。『我謝遺跡』。
- ・西原町教育委員会。1983。『我謝遺跡』。
- ・西原町史編集委員会編。1996。『西原町史 第5巻：資料編』。西原町役場。



白磁、青磁、カムイヤキ、滑石製石鍋など沖縄島以外から持ち込まれたものが利用されていたのだよ。その後、17世紀頃まで連続して人々が生活していたのだよ。



●グスク土器

